

様式第6号（第6関係）

被害防止計画目標評価報告書（令和5年度）

1 事業実施主体名 柏原市

2 対象地域及び実施期間

対象地域	大阪府柏原市全域
実施期間	令和2年度～令和4年度

3 被害防止計画目標の達成状況

目標指標	対象鳥獣	基準年度 （令和元年度）の実績 値 （A）	目標値 （B）	目標年度 （令和4年度）の実績 値 （C）	達成率 A-C /A-B	備考
被害金額		千円	千円	千円	%	
	イノシシ	3,717	3,531	1,541	1,170	
	カラス	3,472	3,298	3,678	-118	
	アライグマ	3,432	3,260	4,788	-788	
	合計	10,621	10,089	10,007	115	
被害面積		ha	ha	ha	%	
	イノシシ	0.58	0.55	0.18	1,333	
	カラス	0.53	0.50	0.52	33	
	アライグマ	0.37	0.35	0.46	-450	
	合計	1.48	1.40	1.16	400	
その他 （ ）						

（注）被害金額及び被害面積以外の目標を設けている場合は、その他の（ ）内に記載すること。

4 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業内容	事業量	管理主体	供用開始日	利用率	事業効果 (経営状況含む)
鳥獣被害防止総合対策事業（推進事業）	イノシシ箱わな 令和2年度3基 令和3年度3基	柏原市 有害鳥獣被害防止対策協議会	令和3年1月 令和4年2月		イノシシ捕獲頭数 令和2年度170頭 令和3年度99頭 ※事業で購入した箱わな以外も含めた市全体の有害捕獲数を記入
	アライグマ箱わな 令和2年度3基 令和3年度3基 令和4年度3基	柏原市 有害鳥獣被害防止対策協議会	令和3年1月 令和4年2月 令和5年2月		アライグマ捕獲頭数 令和2年度100頭 令和3年度76頭 令和4年度77頭
鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業	イノシシの捕獲 令和2年度 171頭 令和3年度 95頭 令和4年度 35頭	—	—		イノシシ捕獲頭数 令和2年度171頭 令和3年度95頭 令和4年度35頭
柏原市鳥獣被害防止対策事業 ※J A大阪中河内と協同で実施	令和2年度 L=2,218m 令和3年度 L=2,483m 令和4年度 L=1,706m	柏原市 有害鳥獣被害防止対策協議会	令和3年 3月18日 令和4年 3月30日 令和5年 3月28日		以下、受益地においてイノシシの被害を防止 令和2年度2.6ha 令和3年度2.01ha 令和4年度1.16ha
柏原市有害鳥獣駆除事業	有害鳥獣駆除委託 イノシシ捕獲頭数 令和2年度170頭 令和3年度99頭 令和4年度44頭 カラス 令和2年度537羽	—	—		イノシシ捕獲頭数 令和2年度170頭 令和3年度99頭 令和4年度44頭 カラス 令和2年度537羽

	令和3年度414羽				令和3年度414羽
	令和4年度251羽				令和4年度251羽

(注1) 事業の実施により発現した効果を幅広に記入すること。

なお、処理加工施設を整備した場合は、当該施設の利用率も記入すること。

(注2) 鳥獣被害防止施設を整備を行った場合には、侵入防止柵設置後の圃場ごとの鳥獣被害の状況並びに侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係わる指導内容、維持管理方法、維持管理状況を別紙1に具体的に記載し、添付すること。

5 総合評価

イノシシについては、JA大阪中河内と協同で侵入防止柵の整備を行い、鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業により積極的に捕獲を進めた。豚熱の影響もあり、捕獲個体数は減少し、被害面積・金額ともに目標を超過達成した。豚熱が収束した後は、再び増加することが予想されるため、国庫事業等を活用して捕獲を継続するとともに、新たな被害地域が発生した際には侵入防止柵の整備を行う。

カラスについては、既存の捕獲檻（4か所）を利用し、市事業により積極的に捕獲を進めた。捕獲個体数は減少し、被害面積は微減したが、被害金額としては増加し、目標数値に達しなかった。今後も継続して捕獲を実施する。

アライグマについては、国庫事業にて捕獲檻の導入を図り、捕獲個体数はやや減少したが、被害面積・金額ともに増加した。時折箱わなが不足することがあるため、引き続き、国庫事業を活用して箱わなの導入数を増やし被害の減少を目指す。

(注) 目標が未達成となった場合は、その理由も記入すること。

6 第三者の意見

別紙のとおり

別紙

柏原市被害防止計画目標評価報告書（令和5年度）についての意見

イノシシによる農業被害は、金額・面積ともに基準年度から大幅に減少しており、目標を達成できています。当所による、イノシシ生息密度の指標である捕獲効率の調査結果でも、令和4年度にかけて減少傾向がみられるほか、農業被害意識のアンケート調査結果でも被害強度や出没頻度が減少傾向を示していることから、柏原市周辺に生息するイノシシが減少し、被害が軽減できていることが示唆されます。この要因としては総合評価に記載されているように、対策事業による捕獲や防護柵設置の推進が奏功していることと、府内全域に蔓延した豚熱の影響が考えられます。一方で、依然として被害が「大きい」や「深刻」とする回答が一定数みられることから、対策の手を緩めることなく、継続して防護柵の設置や捕獲の強化を進めていくことが重要であると言えます。豚熱の影響で、農作物の味を覚えてしまった加害個体が減少している今のうちに、農地周辺での刈払いや廃棄作物の適切な処置を行うなど、イノシシを農地に誘引しないような環境づくりを進めていくことも重要です。

カラスによる農業被害は、面積はやや減少したものの、金額は基準年度から増加してしまっており、目標を達成できていません。当所によるアンケート調査でも、緩やかながら被害強度の平均値が増加し続けており、引き続き対策が必要であることが示唆されます。捕獲についてはカラスの分布状況が変化している可能性も考慮し、可能な範囲で捕獲地点を変更しながら継続していく必要性が考えられます。また、農地での追い払いの取組や、近隣市町村との連携も視野に、対策を強化していくことが重要です。

アライグマによる農業被害は、金額・面積ともに基準年度から大きく増加しており、目標の達成には至っていません。当所によるアンケート調査の結果でも、被害強度と出没頻度に減少傾向はみられず、継続的に被害が発生していることが示唆されます。また、「分布なし」とする回答割合が徐々に減少していることから、アライグマの分布域が拡大している可能性が考えられます。捕獲わなの増設などを進めて捕獲圧を強化するとともに、妊娠・授乳期である2～6月頃の捕獲数を増加させること、被害の少ない地域やアライグマの生息数がまだ少ないと思われる地域でも予防的に捕獲を強化することを進めていく必要があります。